

〔学会〕 第 916 回 千葉医学会例会 第 2 回千葉泌尿器科同門会学術集会

日 時 : 平成 7 年 1 月 22 日 (日) 午前 9 時 00 分

場 所 : ほてい家

1. 腎平滑筋腫の 1 例

石引雄二 (県立佐原)

65 歳, 男性。主訴は右腎腫瘍精査。胃癌術後の経過観察中, 平成 6 年 5 月 9 日の腹部 CT にて右腎腫瘍を認め, 5 月 17 日当科紹介, 初診。IVP 異常なし。CT で腫瘍は境界明瞭, 均一, 造影効果なし。MRI は T2 強調で低信号領域腫瘍。血管造影で乏血管性の腫瘍。根治的右腎摘除術施行。腫瘍は 18×15×18mm の大きさ。病理診断は平滑筋腫。腎平滑筋腫は自験例を含め本邦 37 例目の報告であった。

2. Goodpasture 症候群と思われた 1 例

小林洋二郎, 榊鏡年清 (東京船員保険病院)

症例は 54 歳女性, 平成 6 年 1 月下旬より上気道炎症状・血尿あり, 2 月 1 日無尿となり当科緊急入院, 入院時, 腎不全の状態, 直ちに血液透析を開始した。第 7 病日に突然, 血痰, 呼吸困難出現し, 胸部 X-P で両肺野に雲状陰影を認めた。同日より血漿交換, ステロイドパルス療法を開始した。このとき血中抗基底膜抗体は異常高値であった。治療により肺所見は改善したが, 腎機能は改善せず, 平成 7 年 1 月現在外来維持透析中である。

3. 腎盂癌との鑑別が困難であった胃癌腎転移の例

李 瑞仁 (帝京大・市原)

症例は 56 才男性。平成 3 年 3 月 Borrmann III 型胃癌にて手術施行。平成 5 年 5 月血尿出現。静脈性腎盂造影, 逆行性腎盂造影にて左腎杯に陰影欠損像がみられた。造影 CT では腎実質の造影は弱くまた, 腎盂腎杯に拡張し, 陰影欠損像がみられた。動脈造影では, 左腎中部から上極にかけ動脈の枯れ枝状変化を認めた。以上の所見および胃癌の既往から, 腎盂腫瘍あるいは転移性腎腫瘍を疑い, 平成 5 年 6 月 14 日, 左腎尿管全摘, 膀胱部分切除術を施行した。病理は metastatic mucinous adenocarcinoma of kidney。胃癌の組織

所見とあわせて, 胃を原発とする転移性腎腫瘍が考えられた。

4. 尿路結石症の臨床的検討

高尾昌孝, 高原正信 (上都賀総合)

尿路結石症の現状を把握することを目的として, 平成 2 年より平成 5 年までの 4 年間で当院で診療した尿路結石 440 例について臨床的に検討した。平成 4 年 6 月より ESWL を導入したが, それ以後約 60% の患者数増加を認めた。結石の大きさが DS 3 以下では, 自然排石を 50% 以上期待できるが, DS 4 以上では ESWL を含めた手術的治療が第一選択と思われた。

5. 尿管自然破裂の 2 例

須賀喜一, 脇坂正美, 高岸秀俊
(船橋中央)

症例 1 57 歳女性。急な右側腹部痛にて受診。DIP, CT, RP にて右腎盂の拡張と尿管より造影剤の流出を認めた。下部尿管には結石や外部からの圧迫などは認めなかった。Double-J カテーテルを挿入し, 3 ヶ月後抜去。DIP, 超音波にて治癒を確認した。

症例 2 53 歳男性。右下腹部痛にて受診。DIP, CT にて右腎盂の拡張と尿管より造影剤の流出を認めた。翌日結石の自然排出あり, RP にて流出の止まったことを確認した。

6. 心因性勃起のリジスキャンおよび尿流動態検査による研究

安田耕作 (千大)

AVSS (audiovisual sexual stimulation) を施行しリジスキャンおよび 5-Transducer Urodynamics の感度を比較した。対象は正常 1 例 (60 歳) と第一腰椎圧迫骨折 3 例 (24, 27 と 55 歳) の 4 例である。自宅では 4 例とも勃起可能であるが検査時リジスキャンに反応の認められる程の勃起は 1 例のみであった。AVSS 開始後, 4 例とも外尿道括約筋部圧が上昇した。3 例